

被爆者とともに核兵器廃絶へ



▶全国の青年は被爆体験と海外の青年のスピーチを聞き学んだ(8月8日)

8月7、8日(台風6号の影響で日程短縮)、原水爆禁止2023年世界大会が長崎で開催されました。オンライン視聴と併せて4300人(主催者発表)が参加。ロシアのウクライナ侵略が続く情勢の下、参加した青年は被爆者の声を聞き、核抑止力論の危険性や核兵器廃絶への思いを強めています。(文中の青年は一部仮名、写真はすべて長崎、今井千尋記者)

原水爆禁止2023年世界大会・長崎



▲開会総会で海外代表の発言を聞き拍手する参加者(8月7日)

の中に日本が入るべき」とうったえました。

世界各国を突き動かし、核兵器禁止条約の成立を大きく後押ししたのは、被爆者の声です。1955年に広島で開かれた第1回原水爆禁止世界大会は「原水爆

初めて世界大会に参加した三田佑介さん（大学1年）は田中さんの言葉に「グサツときた」と言いま

らせることもできず、苦しみながら人生を暮らされた多くの方に思いをはせることができました。……今日から自分の体験として周りに広めていきたい」などの感想が寄せられました。

（2面につづく）

半数に迫る92の国と地域が署名し、世界の主流は平和と核兵器廃絶です。禁止条約は、核被害者の救済に向けて具体化が始まり、国際法として機能しつつあります。日本共産党の志位和夫委員長は8月6日、世界大会・ヒロシマデー集会で日本政府の禁止条約への参加を求めつつ「まずは第2回締約国会議にオブザーバー

は「私たちは体験を通してさんあった話とかは情景が想像できた。実際に話を聞くのと聞かないのではリアリティーが違う。直接話を聞くのが一番いいと思う」と言います。青年のひろばでは、被団協事務局長の木戸季市すけいちさんもあいさつし、憲法を生かし守る運動を呼びかけました。その後、海

外的青年がスピーチしました。

上が加盟しています。

米政府が明らかにしました。クラスター爆弾の使用は国際条約で禁止されており、条約には100カ国以

クラスター爆弾が、ロシア に対して使用されたことを 8月6日、岸田文雄首相

強調しました。

核被害者の アプローチ

人道的

8月8日、分科会「青年のひろば」では、被団協代表委員の田中熙巳（きよみ）さんが自身の被爆体験を語りました。初めて被爆者の話を聞いた三

「非人道的」を想像して心に収めて」

ロシアによるウクライナ侵略が続き、プーチン大統領による核兵器使用の威嚇（いくわ）がくり返される情勢の中、NATOも7月の首脳会談で核兵器に固執する姿勢を見せ、「核対核」、「軍事対議」（8月4日、広島）で濱義務には触れず、核抑止力

住治郎さん（日本原水爆被害者団体協議会〈被団協〉事務局長）は「核兵器による『抑止力』は、被爆者への国家の欺瞞（ぎまん）であり、すり替えてあり、ごまかしで

「核抑止力」の成果を強調しました。各国の指導者に対し核抑止力論からの脱却をうっ

たえたのが広島市松井一實（かずみ）市長、長崎の鈴木史朗市長

今年の世界大会では、アメリカのジョセフ・ガーツンさん（平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン議長）が、核兵器の破壊的影響を人類に警告するために、ためます活動された。核兵器の破壊的影響を人類に警告するために、ためます活動された。

「軍事対軍事」の悪循環

心循環

は広島、長崎の平和記念式典で、被害者の不幸な実相は、ひたすら「核兵器のない世界」を表明しながら、核兵器禁止条約や核不拡散条約（NPT）当の原水爆禁止運動の基